



# DEALWATCH AWARDS 2023

CELEBRATING THE ACHIEVERS IN JAPAN'S CAPITAL MARKETS

2024年3月29日  
DealWatch 編集部

## LSEG DealWatch、2023年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

**総合部門の発行体に「デンソー」  
引受ハウスに「野村證券」を選定**

ロンドン証券取引所グループ(LSEG)の「DealWatch」は、2023年度に国内資本市場において債券や株式を発行した優秀な発行体、海外でオファリングを行った本邦発行体および案件を運営した引受証券会社を称える賞「DEALWATCH AWARDS 2023(ディールウォッチ・アワード 2023)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場としてさらに発展していく」という観点から、アワードは発行市場における適正なプライシング、流通市場に移行した後の価格形成、資本市場の発展への貢献や創意工夫などを考慮し選定されています。

2023年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」「社債」「地方債」「クロスボーダー債」「サステナブル・ファイナンス」「株式」の計6部門で構成されています。総合部門では発行体に「デンソー」、引受ハウスには「野村證券」がそれぞれ選定されました。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受証券会社や機関投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を推薦して頂いています。2006年度からは、希望する証券会社からの自薦を受け、DealWatch 編集部が、選定された候補案件や候補者を DealWatch Awards 判断基準にのっとり、さらに吟味・選考した結果、最終的に受賞案件、受賞者を決定しております。

2023年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。



# DEALWATCH

## AWARDS 2023

CELEBRATING THE ACHIEVERS IN JAPAN'S CAPITAL MARKETS

### DealWatch について

DealWatch は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の資金調達活動をリアルタイムにレポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

### LSEG について

ロンドン証券取引所グループ(LSEG)は、世界をリードする金融市場インフラおよびデータプロバイダーであり、グローバル金融システムにおいて社会的・経済的に重要な役割を担っています。オープンなアプローチで、信頼性の高い専門知識をベースにグローバル展開することで、お客様とそのコミュニティの持続的な成長と安定を実現しています。当社は、データとアナリティクス、インデックス、資本調達、複数アセット・クラスにわたるトレーディングの執行、クリアリングとリスクマネジメントの分野において豊富な経験や幅広い知識と共に専門性の高いパートナー企業として世界中で事業を展開しています。LSEGの本社所在地は英国で、欧州・中近東・アメリカ、北米、アジア太平洋地域の70カ国で事業を展開しています。世界中で23,000人の従業員を雇用し、その半数以上がアジア太平洋地域で業務遂行しています。LSEGの証券コードはLSEGです。

### LSEG データ&アナリティクスについて

金融市場のデータとインフラの提供で世界をリードするLSEG データ&アナリティクス部門は、約190カ国の4万社以上の企業と40万人以上のユーザーを顧客基盤とし、世界の金融コミュニティに欠かせないパートナーとして、金融サービス業界におけるデータの未来を再定義しています。データ、フィード、アナリティクス、AI、ワークフロー・ソリューションを通じてお客様が重要なインサイトを導き出す手助けをしています。また、当社独自のインサイトをお客様のワークフローにシームレスに統合することで、お客様がビジネス機会を特定し、競争優位性を高めるための支援をしています。

以上

### DealWatch に関する問い合わせ先:

DealWatch 編集部 鈴木: [kaho.suzuki@lseg.com](mailto:kaho.suzuki@lseg.com)



# DEALWATCH AWARDS 2023

CELEBRATING THE ACHIEVERS IN JAPAN'S CAPITAL MARKETS

## DEALWATCH AWARDS 2023 受賞一覧

### 総合部門

#### <Issuer of the Year>

##### デンソー

政策保有株式の売却にトヨタグループとして真摯に向き合い、約 6100 億円の巨額ディールを完遂。市場との対話を重視しながら資本効率の向上を図る財務戦略の実行によりグループの企業価値創造の機会を広げた。

#### <House of the Year>

##### 野村證券

いかなる市場環境においても盤石な体制で総合力を発揮した。さまざまなテーマで資本市場が活用される中、綿密な議論により最適なスキームを構築して入念かつ柔軟に案件遂行を支援。進取果敢に商品開発に取り組み、市場の育成で先導的な役割を果たした。

### 社債部門

#### <Bond Issuer of the Year>

##### オリックス

多岐にわたるビジネスを展開する同社が、国内外の資本市場を積極活用した。さまざまな年限に加え、ホールセール債、リテール債、外債で幅広い投資家にアクセス。1 銘柄の発行額は小粒ながらも丁寧な起債運営や適正水準の模索で存在感を発揮した。

#### <Bond House of the Year>

##### みずほ証券

社債のリーグテーブルで首位。国内初の公募無格付け社債・社債管理補助者設置債を単独で組成したほか、大型案件や変動利付債の組成、超長期債への参加など、多種多様な商品を投入して市場の活性化につなげた。

#### <Bond of the Year>

##### 第 11 回三井住友フィナンシャルグループ債 (890 億円、永久 NC5 年 2 カ月、劣後債)

SMBC 日興証券

##### 第 12 回三井住友フィナンシャルグループ債 (510 億円、永久 NC10 年 2 カ月、劣後債)

SMBC 日興証券

クレディ・スイスの AT1 債が無価値になった後に他の金融機関に先駆けて登場。同債は、スイスでは株式よりも先に毀損するが、日本では弁済順位が上という認識を浸透させて不安を払拭。後続の足掛かりを築いた。



### <Debut Debt Deal of the Year>

#### 第1回ジャパンインベストメントアドバイザー債 (35億円、2年)

みずほ証券

国内公募社債初めてとなる無格付け債でデビュー。社債管理補助者を国内で初めて採用して投資家保護と発行費用の低減につなげた。異例だらけのスキームを導入した斬新な案件となり、今後の起債の可能性を示した。

### <Innovative Debt Deal of the Year>

#### クライメート・トランジション利付国庫債券 第1回(7995億円、10年)

日本政府が脱炭素技術の開発などを支援するため世界初の移行国債を発行。欧州が先導する環境金融において、多排出国・日本のトランジションへの理解を広げるとともにGX推進の本気度を世界に示す意義深い案件となった。

## 地方債部門

### <Local Government Bond House of the Year>

野村證券

主幹事方式の案件での引受実績で圧倒。全案件の4割超の事務主幹事を務めて市場の健全性を維持した。基軸年限以外の主要案件にも関与したほか、一進一退の地合いの中で環境に即した起債運営で市場のけん引役を担った。

### <Local Government Bond of the Year>

#### 横浜市第1回公募公債 (150億円、2年)

ゴールドマン・サックス証券／大和証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券

年限の選択余地が限られる市場公募債において、金利上昇局面に短い年限を志向する投資家の関心を捉えるべく珍しい年限を選択。市場の地合いに応じた機動的な年限の選択が、需要獲得に有効な手段であることを知らしめた。

## クロスボーダー債部門

### <Cross-border Bond House of the Year>

みずほ証券

クロスボーダー円債市場で圧倒的な存在感を発揮。あらゆる地域から金融、事業会社、外国政府の起債に関与したほか、デビュー債、ESG債など多様な案件を市場に導いた。クロスボーダー外債では継続発行体を支えた。



### <Offshore Bond of the Year>

#### 楽天グループドル債 (18 億ドル、3 年)

ゴールドマン・サックス／モルガン・スタンレー／大和証券キャピタル・マーケットアメリカ／米国みずほ証券／  
 SMBC 日興セキュリティーズ・アメリカ／BofA セキュリティーズ／シティグループ・グローバル・マーケット／  
 野村セキュリティーズ・インターナショナル

新発ドル債での調達で既発ドル債の早期償還資金を確保する「マチュリティ・コントロール」を能動的に実行。当初予定から 8 億ドルもの追加オーダー獲得により増額に成功。社債償還スケジュールの平準化を実現させた。

### <Cross-border Yen Bond of the Year>

#### 第 1 回 NAVER 債(140 億円、3 年 6 カ月)

シティグループ証券／みずほ証券

#### 第 2 回 NAVER 債(15 億円、5 年)

シティグループ証券／みずほ証券

#### 第 3 回 NAVER 債(15 億円、7 年)

シティグループ証券／みずほ証券

#### 第 5 回 NAVER 債(30 億円、12 年)

シティグループ証券／みずほ証券

日本でも知名度が高い韓国最大の IT 企業がサムライ債市場に初登場。アジアの IT 企業が円債調達するのは珍しく、同社が起債を実現したことで、アジアの新興企業にとっても日本市場が調達源の役割を果たすことを示した。

### サステナブル・ファイナンス部門

#### <Sustainable Finance Issuer of the Year>

##### JFE ホールディングス

脱炭素難易度が高い鉄鋼業界で、GX 成長ストーリーを推し進めるため海外公募とユーロ円 CB で大型調達を敢行。国内外投資家の支持を集め、脱炭素に向けエクイティも活用する資金調達手法多様化の好例となった。

#### <Sustainable Finance House of the Year>

##### みずほ証券

新たな発行需要のトレンドを捉えて具現し、社会貢献債の拡大継続を主導した。ウォッシュ防止の規範を持ちつつ、話題性と実効性両面を強く意識し、発行体に寄り添う重要業績評価指標や資金用途の提案を行った。



## 株式部門

### <Equity Issuer of the Year>

#### 楽天グループ

年度を通して成長投資の継続と財務健全性の維持に向け尽力。事業の売却に加えて、子会社上場や資本性調達、海外売  
出など資本市場をフル活用してリファイナンスを完遂するとともに強固な投資家基盤を築いた。

### <Equity House of the Year>

#### 野村證券

質・量を伴う案件運営で市場をけん引。主要な大型案件では圧倒的な販売力と安定感ある執行力を発揮して後続につなげ  
たほか、発行体の要望に応える市場環境に即したスキームを構築して調達を支援した。

### <Equity Deal of the Year>

#### アサヒグループホールディングス

[受渡日 12/1] 野村インターナショナル／JP モルガン・セキュリティーズ／英国 SMBC 日興キャピタル・マーケット／  
みずほインターナショナル

ガバナンス強化の方針から、発行体が主体的に金融機関の売却意向を取りまとめて大型売出を敢行。新たな安定株主とな  
りうる海外投資家層の拡大を企図して積極的に面談を行い、優良ロング投資家の追加買い増しを実現した。

### <IPO of the Year>

#### KOKUSAI ELECTRIC

[受渡日 10/25] 野村證券／モルガン・スタンレー・インターナショナル／SMBC 日興証券／ゴールドマン・サックス証券／み  
ずほ証券

本邦市場で約5年ぶりの1000億円超の大型グローバルIPO。不透明な市場環境、半導体サイクルが悪化している難易度  
の高い状況で丁寧に案件を執行。優良海外投資家から関心を集め、極めて堅調な株価パフォーマンスにつなげた。

### <Equity-linked Product of the Year>

#### 東急 2028 年満期ユーロ円 CB (300 億円、5 年 3 カ月)

野村インターナショナル／大和証券キャピタル・マーケットツヨーロッパ／UBS／JP モルガン・セキュリティーズ

#### 東急 2030 年満期ユーロ円 CB (300 億円、7 年 3 カ月)

野村インターナショナル／大和証券キャピタル・マーケットツヨーロッパ／UBS／JP モルガン・セキュリティーズ

渋谷の大規模再開発の原資確保、資本効率の改善、持ち合い株式の解消という3つの課題解決に同時に取り組んだ。金  
利の先高観が意識される中での大型起債で、負債性の高い商品設計で後続案件に調達の選択肢を示した。



# DEALWATCH AWARDS 2023

CELEBRATING THE ACHIEVERS IN JAPAN'S CAPITAL MARKETS

## <J-REIT Deal of the Year>

### 産業ファンド投資法人

[払込日 2/28] SMBC 日興証券／野村証券／モルガン・スタンレー・インターナショナル／KKR キャピタル・マーケット  
金利上昇懸念がくすぶる難しい市場環境下で、スポンサーである KKR からの物件取得とインフレ耐性を高める賃料導入で新規を含む海外投資家からの旺盛な需要を獲得。資産規模を大幅に拡大した。

## <Innovative Equity Deal of the Year>

### ソフトバンク第 1 回社債型種類株式

[払込日 11/1] 野村証券／みずほ証券／大和証券

議決権の希薄化が生じない債券の側面と自己資本の充実に寄与する株式としての側面を兼ね備えた国内初案件。株主に配慮しながら市場の変動局面でも大規模な調達が可能で、安定した固定配当も備える商品性により新たな資本調達の選択肢を示した。

以上